

青山讚頌

穉月明作品選集





「千里を照す者

と一隅を守る

者、これ則ち国

宝なり」と古人は

申されましたが

世の一隅にあつて

自分なりの心から

の歌をうたって

人々によるこびと

安らぎを与えら

れたら絵を描く

遷生の無上の

幸せです

穂月明

(個展挨拶文より)

穂月明 あきつきあきら

水墨画家穂月明は絵を描くことだけで成功を収めた希有な画家です。京都市立美術大学（現京都市立芸術大学）を卒業後は師に付かず、弟子を取らず、派閥に属さず、ほぼ個展だけで作品を発表し続け、大きな賞や役職には無縁でマスコミに採り上げられることもほとんどありませんでした。しかし、その独自の画風は多くの支持者を得、日本有数の人気作家となりました。

明は高野山大学の教授だった穂月聖憲の末子として高野山で生まれましたが、四歳の時に父の郷里の寺愛媛県西条市の実報寺に帰り少年時代を過ごしました。

大学では油絵と日本画を習得しますが、卒業間際、中国清朝の文人画家「金冬心」の画集に出会い独学で水墨画に転向します。当初京都女子高校の講師等もしていましたが、やがて画廊の専属画家として定収を得るようになり、以来画業一本で作品を発表し続けることで人気を得て行きました。

五二歳の時、伊賀に居を構え、此所をアトリエとします。

八五歳の時「青山讃頌舎 美術館 日月舎」を建て公開しましたが平成二九年四月十五日八七歳で生涯を閉じました。

施設はその後伊賀市に寄贈され今日に至ります。「青山讃頌舎」は此の地 青山とその美しい山河を称えるという意味を込め穂月明が命名しました。



ランプ 水墨／最初期の水墨画



睡蓮 油彩／美大時代の作



思い出 喧嘩両成敗 水墨淡彩／明本人と姉、障子越しに家族が見える。



籠の芙蓉 水墨淡彩



雪中花鳥図 水墨淡彩 52 歳



鉢中の白椿 水墨 50歳



鉢中の天 水墨淡彩／「春は花 夏ほとゝぎす 秋は月 冬雪ありてたのしかりけり」本歌／道元



鉢中の月 水墨淡彩



蓮池龜圖 水墨淡彩



秋果图 水墨



来迎野仏図 水墨 53 歳



水辺の二躰佛 水墨淡彩



弥勒菩薩 水墨淡彩



星天野の仏 水墨淡彩



雪の寺 水墨淡彩 64歳 / 大和郡山 松尾寺に取材



帰依法境 水墨淡彩／絵の裏面に三竟文「弟子某甲 盡未来際 帰依仏竟 帰依法竟 帰依僧竟」が記されている



孤月鐘聲 水墨／「鐘氷る尾の上の寺や月孤つ」黒柳召波句



阿弥陀如来 水墨淡彩 49 歲



普賢菩薩 水墨淡彩 52 歲



文殊菩薩 水墨淡彩 52 歲



山岳如意輪観音 水墨淡彩

「而今の山水は古仏の道現成なり、ともに法位に住して究尽の功德を成ぜり」正法眼蔵山水経



春秋池景 水墨淡彩 52 歲





清光何れの處に無からん 水墨淡彩／「清光無何處」伊予大島亀老山より



月の小川 水墨淡彩

流水頌歌^{ながれのうた}

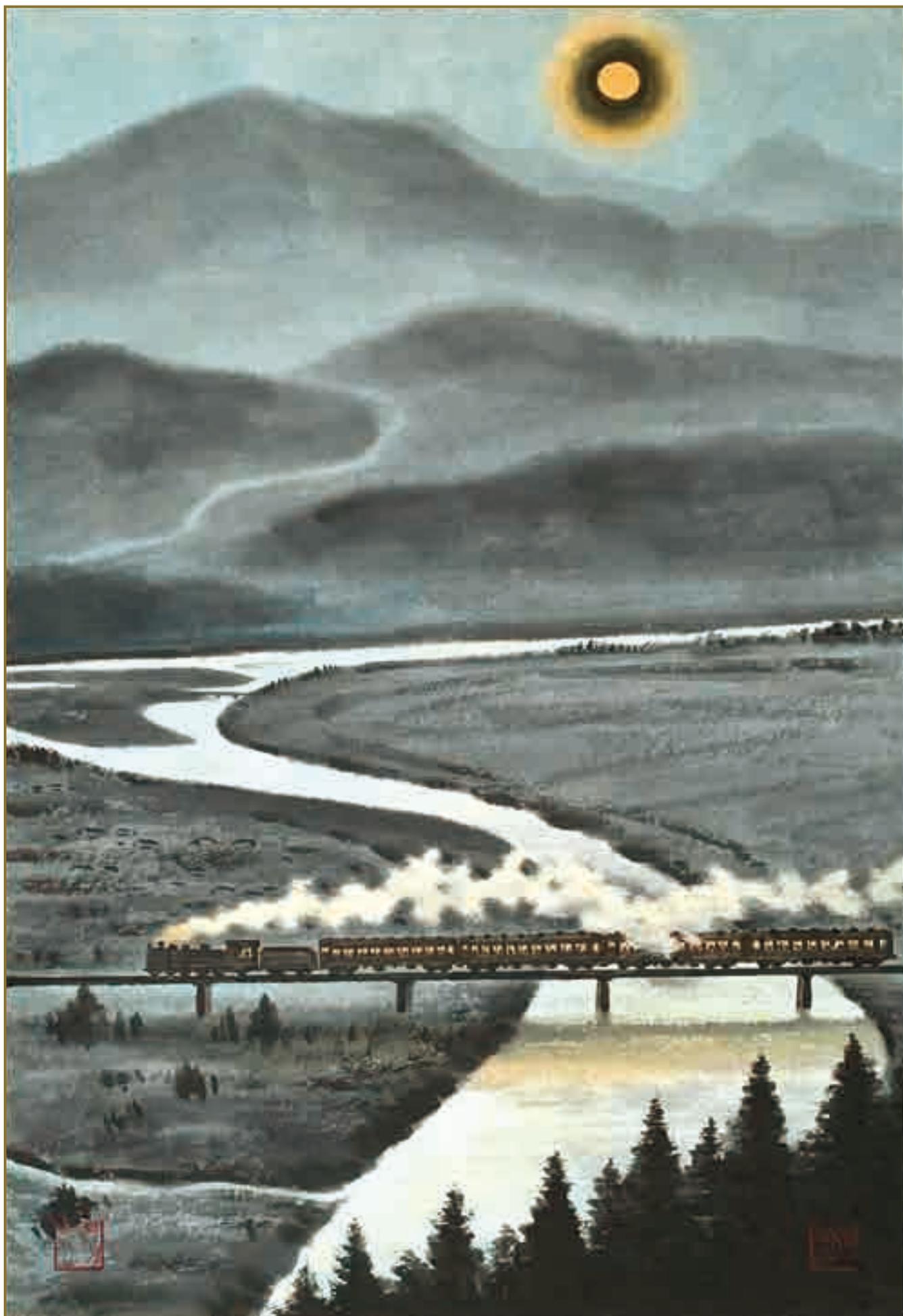
川の源流から、人の生活する村・街を経て河口までたどってみると人間と自然や生き物との交流^{かかわり}の虚偽^{うそ}や眞実^{まこと}や祈りが隠す所無く見えて来ます。

逝く者は斯くの如きか、夫れ昼夜を捨てずと古人も申された様に流水も人の一生も全て大海原^{うみ}へと流れ去ります。或る時は無上のやさしさと安らぎと悠々たる大らかな樂しさを。又或る時はきびしさと無常を感じさせ乍^{なが}ら、それも皆大海原で雲となり風に運ばれ雨となり川となり流れて逝^ゆきます。この生き方こそ自然さでこの調和に逆らえば不自然で人自身へと返って来る。この眞実^{まこと}の法^{おしえ}に帰依し称^{たた}へる頌歌^{うた}を墨と筆に託しました。

穂月明



星夜渡橋 水墨 52歲



追想 夜汽車 水墨淡彩



思い出の富士山 水墨淡彩



御堂讚 水墨淡彩

三摩耶戒

われらはみほとけの子なり、

ひとえに如来大悲の本誓を仰いで不二の淨信に安住し、

菩薩利他の行業を励みて、法身の慧命を相続したてまつらん。

真言宗仏前勤行次第より



風神雷神 水墨淡彩



母仔猫 水墨淡彩

【穂月明略歴】

- S 4年 和歌山県高野山に生まれる
- S 8年 愛媛県東予市の実報寺で少年時代を過ごす
- S 28年 京都市立美術大学洋画科
(現京都市立芸術大学) 卒業
- S 29年 京都醍醐寺に居住、結婚
- S 33年 京都市立美術大学日本画専攻科修了
日本画と洋画の基礎を学ぶ。卒業間近に、中国清時代の画家、金冬心の画集を見て深い感銘を受け、それまで学んだ画法から全く離れて独習により水墨画の道に入る
- 以来、師にもつかず、いかなる流派にも属さず、水墨表現を独習、作品発表はもっぱら個展による
- S 46年 第1回山種美術館賞展(山種美術館主催)「鉢中の天」入選
- S 56年 現在の伊賀市阿保地域に移り住む
- H 1年 『穂月明水墨画集』(京都書院) 刊行記念に「画業35年―墨彩の世界―」展を池袋アート・フォーラムに於いて開催
- H 2年 新宿伊勢丹にて于右任・穂月明「書と画」2人展大阪上本町近鉄百貨店に於いて「穂月明水墨画展」開催
- H 4年 西武アート・フォーラムに於いて「穂月明墨彩展」開催等々、全国で個展多数開催
- H 10年 大本山増上寺(東京都芝公園) 増上寺会館「格天井画」作成
- H 28年 「青山讃頌舎美術館 日月舎」開催
- H 29年 4月15日死去
- R 2年 6月3日伊賀市立の公共施設として伊賀市ミュージアム青山讃頌舎を開館

穂月明作品所蔵：一般財団法人 東洋文化資料館 青山讃頌舎

睡蓮	2	水辺の二鉢佛	12	青山流水	22
ランプ	2	弥勒菩薩	13	清光何れの	
思い出 喧嘩両成敗	3	星天野の仏	14	處に無からん	23
籠の芙蓉	4	雪の寺	15	月の小川	24
雪中花鳥図	5	帰依法境	16	星夜渡橋	25
鉢中の白椿	6	孤月鐘聲	17	追想 夜汽車	26
鉢中の天	7	阿弥陀如来	18	思い出の富士山	27
鉢中の月	8	文殊菩薩	19	御堂讃	28
蓮池亀図	9	普賢菩薩	19	風神雷神	29
秋果図	10	山岳如意輪観音	20	七福神	30
来迎野仏図	11	春秋池景	21	母仔猫	31

あおやまのうた 青山讃頌 穂月明作品選集

発行日 令和4年10月21日
 編集 一般財団法人 東洋文化資料館 青山讃頌舎
 撮影 穂月 大介(一般財団法人 東洋文化資料館 青山讃頌舎)
 発行 公益財団法人 伊賀市文化都市協会
 〒518-0809
 三重県伊賀市西明寺3240番地の2
 ☎0595-22-0511
 印刷 上野印刷(株)

